

みこころ

第16号

2010年
8月15日

発行元:

カトリック城北橋教会 広報委員会

〒462-0847 名古屋市北区金城1-1-57

TEL(052)912-7123 FAX(052)935-2254

(HP)http://johokubashi.mikokoro.net



ヨハネ・ボスコ
牧野 眞
司祭叙階
1985年4月27日

銀祝おめでとう！
ヨハネ・ボスコから私たちに何を導いてくれたら



洗礼者ヨハネ
高山貞美
司祭叙階
1985年5月4日

INDEX 聖母被昇天号

- 「カトリック教会の教えから死刑を考える」 プリヨ・スサント神父 (p2~3)
- 「ヘルマス・アスンビ神父様ありがとう」 (p4)
- 「神学生日記」 片岡義博 (p5)
- 「牧野眞、高山貞美司祭叙階25周年グラフ特集」 (p6~7)
- 「シスター林のおじゃまします セシリア小川リエさんに聞く」 (p8~9)
- 「洗礼を受けて」 山本道隆・山本真優子・平野悦子 (p9)
- 「短歌」 川口伊津子 (p9)
- 「洗礼を受けて」 酒井佳子・岩月陽子 (p10~11) 「心をあらたに」 大岡敦子 (p11)
- 「懐かしき便り」 木川千栄・清水綾子・山本光太郎 (p12~13)
- 「寄稿」 須藤ヨシ子・清水隆 (p13~14) 「信者動向」 (p14)

えから死刑を考える

尊重と責任

主任司祭 プリヨ・スサント



神の似姿

人間は創造主である神によって「神の似姿」に造られたのである（創世記1:26-28）。そのためすべての被造物の中で特別の品格を持ち、神と人との関係および他の被造物との関係の中に自分の尊厳性を見出すことができる。また、人間はすべての被造物が正しい秩序と調和を保つように配慮する使命を神から与えられているのである。この使命は、被造物を自分の

人間の自由と人権の尊重

人間は創造主である神として、自由であることは最も人間にふさわしい姿である。「真の自由は人間の中にある神の似姿の優れたしるしです。神は、人間が進んで創造主である神を求め、神に従って自由に完全で幸福な完成に到達するよう、人間を『その分別に任せること』を望まれました。従って人間の尊厳は、人間が知識と自由な選択によって

ために利用するだけでなく、人が互いに物を分かち合い、補い合う愛の心を持って生きるといふ共存と共生の精神を身に付けることをも求めているのである。

行動することを要求します」（現代世界憲章、17）。

人間の真の自由は、放縱と異なるのである。人間は他者と共に生きる社会的な存在であるから、互いに他者の自由を尊重して生きるために、他者との関係における制約があるし、また、法的な規制を受けているのである。人は、他者への愛から真理と善と正義に従って生きることによって真の自由を体験することができ、他者の自由を尊重し、互いに依存し、連帯して生きるべきにこそ、自分にふさわしい自由な選択をすることができ

人権の尊重については、「神の十戒」の後半（14-20）のおきでも規定されている。「神の似姿」としての人間観は、神の前での万人の平等を示すのである。つまり、同じ尊厳が万人に帰属するものである事を示すとともに、人権は神と人との相互の関係の中に位置づけられる人間の基本的な生の営みであることを教えるものである。

人間の生命尊重

人間は社会や共同体の一員として他者を尊重する義務があるのである。それは、他者の身体的生命とその健康維持だけでは

なく、精神的また霊的生命をも含める。十戒の「殺すな」と言う戒めは、単に身体的に殺す行為だけでなく、隣人を精神的に傷つける反社会的な行為をも含める（マタイ5:21-26）。生命は誰にとっても最高の宝であるから、人は、「いのちのたゝめに全財産をも差し出すもの」（ヨブ2:4）である。このいのちを奪う者が裁判を受けるのは当然である。

恣意的な殺害と死刑

人間の生命の尊厳は神から人間にゆだねられた大切な課題である。一人ひとりの人間のいのちがわたしたちの手に渡されているのである。そのいのちを「人格」である神の愛の贈りものと見るか、あるいはわたしたちが自由に処分できる「物」と見るかによって、人間関係のあり方も生きる姿勢も異なってくる。人間のいのちの中に神の愛をみている人は、自分の恣意的な処理を許さない不可侵の尊厳を見出すことができる。どの人も神の愛の対象であって、根本的には尊厳の軽重はないから、誰でも自分の人生の価値を認め、自分の死を受容することを願っている。「殺すな」と言う

カトリック教会の教

人間の生命

戒めは、このような人の生と死を保護するものである。他殺はこの戒めに背く大きな罪悪である。

また、聖書の禁令は、厳密には、すべての恣意的な報復による個人や共同体に反する殺害を禁じる。それは、敵の殺害や不法者に対する公権による死刑執行を禁じるものではなく、旧約聖書では「死に値する罪」（出エジプト21:12-17）が規定されている。イエス自身も死刑の判決をお受けになったが、死刑にする権限も神から出るものであることを想起させている（ヨハネ19:11）。

キリスト教の倫理では、人間の生命は他者の恣意的な不正な攻撃から守られるべきであり、罪のない者を不正に直接に殺し

てはならないと教えてきた。トマス・アクィナスの教えによれば、ある犯罪人が何らかの罪のゆえに共同体（社会）にとつて危険であり、それを破壊する恐れがある場合には、その人が殺されることは共通善の保全のために有益なことであるとされている。これは死刑を容認する考え方である。死刑の執行権は共通善を配慮する責務をゆだねられている公的権威に限定されている。つまり、死刑とは、公的秩序を犯したり、著しく乱す大きな犯罪の罰として国家の権力によつて犯罪者の生命を奪うことである。これが許されるか否かを判断するためには、正当な理由があるか否かが重要である。

死刑制度の廃止に向けて

現代では死刑制度の存在理由が問われている。正当な自己防衛によつて自分の生命の保全のために、攻撃者が殺されることは倫理的に容認される。死刑の場合にも、社会の共通善や福祉のために公的な裁判によつて殺されるべきか否かが判定される。

しかし、現代では多くの国で死刑制度が廃止されていることは事実である。その廃止の根源は、国家は人間の生命と自由を

保障するが、それらの尊重は国家が与えるものではなく、人間の尊厳に起因するものであるから、犯罪人を罰するためにはその生命までを奪う必要性はないと言つ考え方である（教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『いのちの福音』

の参照）。犯罪者も人間である限り常に改心の可能性があり、それが否定されたり奪われたりしてはならないからである。死刑が執行されれば、その可能性も社会の治療的效果もなくなるのである。したがって、死刑が

犯罪人の矯正のためにも共通善のためにも効果的な刑罰でないとすれば、死刑制度を存続させる必要性もなくなるのではないかと思われる。（「カトリックの教え」、カトリック中央出版、2003年発行、p.329-335参照）。

一年ぶりの「みこころバザー」

新型インフルエンザのため、昨年中止になりました「みこころバザー」が、今年は六月六日に多くの来場者を迎え、盛況のうちに開催されました。皆様のご協力で七十一万円を売り上げ、五十八万円の利益

をあげることが出来ました。寄贈品やお楽しみ抽選会に依存していません。た収益も、パウロドケーキ、フィリピンコーナーなどの食べ物や、手芸品、アクセサリー、クララ会などのコーナーが中心となつてきており、時代の変化を感じました。



収益金の配分については、六月二十日の教会委員会での次のように決まりました。教会改修の積立資金に二十五万円、災害義捐金の積立金に七万円、ホンジエラスなど中南米の貧困に苦しむ若者の教育支援をしているオリーブ・ジャパンに五

万円、福音館に三万円、金沢にありまます知的障害者の授産施設の聖ヨゼフ苑に三万円と計十一万円の寄付、残りの十五万円を信徒会の活動費という内訳です。なお災害義捐金の積立金は、地震などで緊急な支援が必要な時に、迅速に関係機関へ送金するためのものです。

（後藤）

ヘルマス・アスンビ 神父様ありがとう



たった一年、短い期間でした。昨年の九月六日に助任司祭の歓迎会をしたばかりなのに、とても残念という気持ちでいっぱいです。しかしヘルマス神父様は神学生の時から名古屋におられ、二〇〇七年九月二十二日は、城北橋教会で助祭の叙階を受けられました。そして暫くは助祭として私たちのお世話をしてくださっていましたので、神父様の温かい人柄に惹かれておられる方も多いと思います。ですから、二〇〇八年七月五日の故郷インドネシア

での司祭叙階式には代表団でも出そうかと相談したほどでした。帰国されての九月七日、城北橋教会で日本での初ミサを捧げられた時は感激もひとしおでした。その後、岐阜教会の助任司祭を経て城北橋に赴任されていたのです。

「きみは、愛されるために生まれた。きみの生涯は愛でみちている・・・」これはイバシオ神父様の終生誓願式で、シスター林がハーモニカで伴奏をし、ヘルマス神父様がギターをひきながら歌われたものです。元歌は韓国のもので、友人が牧師になったときに贈ったものだ



そうですが、素敵な歌ですので、ヘルマス神父様の甘い低い囁くような歌声とともに、印象に残りますね。七月二十五日も、ヘルマス神父様はこの歌を歌いながら、神様を賛美し、感謝を捧げておられたのでしよう。この日は聖堂でもインドネシア語で「サルヴェ・レジーナ」を歌ってくださいました。元后 あわれみの母 われらのいのち 喜び希望・・・尊いあなたの子イエスを 旅路の果てに示してください おお いくしきみ 恵みあふれる 喜びのおとめ マリア。本当に歌の人でした。インドネシアで一ヶ月の研修の後、九月には福井に赴任、協力司祭として福井、大野、鯖江、敦賀、小浜の五教会をまわられるそうです。寒い北陸での生活が大変でしょうが、お体に気を付けて頑張ってくださいますように。ありがとうございました。

(後藤)



八月一日のミサ後から三日の夕方まで、二泊三日のサマーキャンプが敦賀の水晶浜で行われました。小学生十三名、中学生四名に大人が十一人の二十

楽しかった水晶浜 サマーキャンプ

(後藤)

めん、スイカ割りなど楽しいことが一杯あったようで、みんな嬉しそうに帰ってきました。

教会ロビーに出迎えたお母さんたちが用意してくれたスイカなどを食べ、参加者全員で輪をつくり主の祈りをして解散しました。お世話をしてくださった日曜学校の先生、お母さんたちに感謝するとともに、野菜など差し入れをして下さった皆様にも感謝いたします。これからも教会の宝である子供たちの成長に、力を併せて応援しましょう。



八人がマイクロバスと荷物一杯搭載したミニバン二台に分乗しての大移動で、ドライバールのプリヨ神父様、加納さん、加藤忍君本当に疲れ様でした。子供たちの話では、昔のように綺麗な水晶浜ではなく、利用客のゴミなどが散らかっていたとのこと、大人のマナーの悪さは残念ですね。

それでも海水浴のほかにも花火、流しそう

神学生日記 千葉県松戸教会 での研修 ヨハネ 片岡義博

神学校生活も二年目に入りました。日本カトリック神学院では二年目に入ると、宣教司牧実習（アポストライトス）という形で、毎週末神学生たちが近隣の教会（東京キャンパスでは主に東京教区内）で一泊の研修、奉仕をするようになります。

私も四月から千葉県にある松戸教会という所で研修をさせて頂いています。主には教会学校や典礼奉仕をお手伝いするわけですが、ここで自分たちが福音を宣べ伝える現場と接しながら、いろいろ示唆を受けていきます。

松戸教会のある千葉県松戸市は、千葉県北西部に位置する市内松戸、馬橋、小金地区は、古くは水戸街道の宿場町として栄え、近年は東京のベッドタウンとして発展してきた街です。



また、松戸教会の共同体は、小教区内を八地区に分け、お互いの話し合いや支え合いをしています。そして城北橋教会では「教会委員会」という教会組織を、松戸教会では六年前から各地区からの代表を加えて「司牧評議会」という名称に変え、松戸教会における宣教活動や司牧活動のための話し合いや運営を行っています。この司牧評議会

今から六〇年ほど前に創立され、教会の信徒数は約一六〇〇人（城北橋教会の約二倍）と大きい教会です。

主日のミサには土曜日夕方に一〇〇人程度、日曜日にはミサが二回あり、朝八時のミサに一五〇人程度、十時のミサにも二〇〇人程度とそれぞれのミサに多くの信者さんがミサにあずかられています。

最初はその人数に驚かされました。しかも、その土日の主日の三回のミサともオルガンが入

り、事前に決められている同じ聖歌を歌います。侍者は土曜日や日曜日の朝は、大人の方々も奉仕をして、共同祈願や、奉納なども、すべて当番で協力して奉仕して下さっています。

主任神父様にそのこといろいろと伺って見たところ、日曜日の十時のミサなどがメインのミサと捉えたりすることが多いけれども、三つのミサとも同じ共同体の主日のミサだから、出来る限り差がないように工夫しているとのことでした。



私たちが、オルガンにチャレンジします

オルガンは聖歌の伴奏だけでなく、祈りの助けにもなります。このように教会になくてはならないオルガンですが、長い間、演奏を特定の方に依存し負担をかけていました。

そのためそのために典礼委員が苦労して新しい奏者を捜し出し、三人の方が林先生の指導を受けながら頑張ってくださいることになりました。岩本久美子さん、山本陽美さん、八幡京子さんに感謝。（後藤）

は、みんなで考え、みんなで話し合い、みんな決めていけるようにと、毎月三〇名近い方々が参加されます。

また、松戸教会も例外なく高齢化が進んでいるようですが、ヨゼフ会（壮年部）・マリア会（女性部）の活動なども非常に活発に行われ、若者も多く、とても元気のある教会です。外国人信徒のためには、英語・タガログ語によるミサばかりでなく、日本語教室や幼児洗礼のためのセミナーなども開いているようです。

難しさを実感させられます。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる。」と教会共同体についてマタイ福音書（一八・二〇）は書いています。

イエスの生き方に従う私たちは一人で歩むのではなく、やはり教会の共同体と共にイエスの呼びかけに応えていかなければならないんだ、とそんなことを感じます。

まだまだ神学生の間のこの宣教司牧実習は続きます。様々な経験を通して、たくさんの方を学べたらと思います。

【今年同じ哲学科二年生で学んでいる仲間たちと共に：】

司祭叙階 25周年 カトリック城北橋教会



聖心布教会を代表してお礼の言葉を述べられるジョーイ地区長代理



「だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば

一日一日やっていきたまえ。

すから・・・

平沢忠雄神父様のお祝いの言葉



ば主のために死ぬのです。生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです（ローマ14・7〜8）」とありますように司祭の精神は大祭司イエス様の聖心と繋がっています。ですから先を歩まれるイエス様に幼子のように、ただつ

他に心を奪われずに、涎をたらさんばかりに夢中になってる小学生を想像したまえ。小さいことはつまらぬことのようにみえるが、神様が見たいと思われるのは、そういう様子だ」と教え諭す場面があります。大祭司イエス様は私たち司祭と共におられます。時々私たちが手を離すことがあっても、イエス様の手を握りなおせば良いのです。叙階五十年にむかって、今日からまた、お二人はまっしぐらに歩んでいただきたい。たとえ神様のことを忘れても、眠ってしまったても、神様は必ずそばにいてくださいますし、眠らずに見守ってくださいるので



牧野眞・高山貞美 5月8日(土) 11時～



昔のカテキスタ会やノートルダム教育修道女会のシスターも各地から参列いただき、まるで同窓会のような雰囲気でした。でも、お互い、寄る年波を感じたのも事実では。「子供たちを中心に考えて」という牧野神父様の希望でしたけど・



シスター林の「おじゃまします」

セシリア
小川リエさんに聞く



私の奉仕スタイル
小川さんの信仰のルーツは、信仰に篤く、教会活動に熱心に修道者がいるなど、小さいころから教会という世界に慣れ親しんでいた。幼児洗礼で、毎週連れられる教会も、当然の週の日課であった。しかし、「初めて自分の意思で教会に行った」のは結婚と同時に来日した時からである。異国の地での新生活は、戸惑いと不安の連続であり、「神様にしか頼る先がなかった」と彼女は言う。城北橋教会に通うことになったきっかけは、クリスチャンではない夫であった。通い始めは、自分のことや自分の家族・親戚のために祈っていた。当時は、教会に知った人がほとんどおらず、教会共同体という意識もなく、また日本人共同体との間に壁を感じていた。しかしある日、聖心布教会のジョーイ神父に声をかけられ、初めて

合いができ、共同体意識が芽生え始めた。今ではフィリピン人同士、互いに知り合い分かち合いグループができるに至った。また日本人とフィリピン人という壁も乗り越えられ、一つの共同体が出来上がり、「子供たちにとつてもとても良い環境」と彼女は満足している。しだいに日曜学校のリーダーや女性部役員、フィリピン人共同体での様々な役割が任せられるようになった。このような教会活動に携わるようになった小川さんには、信条がある。「どんなに忙しくても、ちよつとした時間に小さいことをすることで神様に奉仕する。」これが、小川さんの奉仕スタイルである。信仰の旅路、神への疑い

フィリピン人の司祭がいることを知った。これがきっかけとなり、徐々に教会の中に知り

れたことである。彼女にとって母親との死別は人生最大の試練に思われた。もう十分と思っていたその矢先に、「全てを頼りにしてきた夫が倒れた」のである。今までにない霊的痛みが彼女の信仰を揺るがす。今回の試練は別格であった。「本当に神はいるのか。」温かな家族、友人、教会共同体、全てがあり、全てが満たされていた。教会にも自分のできる限りのサービスをしてきた。それなのに「なぜ神様は私にこんなことをしてくれたのか。」答えのない問いに筆者も黙る。「パ

事件は、家族や親せき、友人関係を揺るがした。温かなサポートがある半面、彼女の肩のしかなかった今までの責任の重みをより一層感じていた。「自分がやらなければならなくなつて少し強くなった。」子供たちの教育も以前以上に責任を感じる。「それ以来、教会に行つて祈る時間が増えた。誰もいない教会で、沈黙の内に、イエスの聖心に話しかける。神様だけが私の見方であるという思いが益々増す一方、「私は、イエス様のことをどこまで知っているのだからと考えるようになった。」話を伺いな

どんなに忙しくても、ちよつとした時間に小さいことをして神様に奉仕する

「アブレミ」はいや
この大事件後、城北橋分かち合いのグループは、出席できない小川さんのために密かに口ザリオの祈りが捧げられていた。彼女の親しい友人は、毎日のように駆けつけ、必要なものをそろえ、小川さん家族を支えた。城北橋教会の様々な人からもお祈りと温かい言葉などを受けた。「友

人や教会の人を通して、神様の支えを感じる。」感謝の気持ちでいっぱいである。しかし同時に、「大変な状況の中でも自分ができることは責任を持ってやりたいので、全部にはokできないが、教会活動を続けていきたい」と強く語る。「眠れない時があつても、なぜか教会活動すると逆に力をもらえる。」彼女は、「かわいそうだから」という理由で言葉を掛けられたり、支援されるのを望まない。むしろ、自らの試練を引き受けながら、しかし教会共同体とは家族のような関係を望むのである。だから、助けを求めて教会来た人には、「お客さま扱いではなく、家族のように迎え入れてほしい。」と切に望むのである。神様を中心とする

実は、月に一回のフィリピン人聖書分かち合いグループも始めからうまくいったわけではなかった。分かち合いを繰り返しながら、数年経つて徐々にお互いが心を開くようになり、互いを知るようになった。たとえ多くのメンバーが集まらなくても、心からの分かち合いと仲間の聴く姿勢がある時は、互いの中に大きな心の癒しと解放があり、絆が結ばれていくのを感じる。「分かち合いの良し悪しは、人数ではなく質による」と小川さんは感じている。こうして成長

していくグループのことを語る小川さんの顔は朗らかである。「何でも、神様を中心にするに上手いく。」そう悟るに至った。さらに彼女は、教会共同体だけでなく、職場でも、親戚関係や家庭生活、すべての世界において当てはまるのだと悟った。「関係が上手くいかないところでは特にこれを意識すると良い」と語る。

とりとめのないインタビューを快く引き受けてくれたばかりか、渦中にある痛みを分かち合ってくださった小川さんの寛容さと信仰心に深く感謝し、多くを学んだ。彼女の存在に動かされた人たちは、背景にあるものを知ることによって、より一層共感し、信仰者としての大きな励ましと勇気を得たに違いない。

洗礼をうけて

ブルーノ
山本道隆

ぼくは、今年の春に洗礼をうけてとてもうれしかったです。神父様や教会のみなさんにいるんなことを教えていただいたか

ら、洗礼を受けられたのだと信じています。

何で、ブルーノという洗礼名にしたかという、ぼくの誕生日は十月六日でその日は聖人ブルーノの日だったからです。それに、一度会ったブルーノ神父様はすごく優しい方だったので、この洗礼名にしました。

洗礼をうける前の日までは、全くきん張していなかったけれど、御ミサの時間に近づくとつれ、だんだんドキドキしてました。洗礼をうけたときに初めて食べたパンはずっと食べたかったもので、すごくおいしく感じました。

ミサでは、侍者や朗読をやら私がカトリック教会のミサに初めて参加したのは二十年前の事と記憶しています。当時、まだ信者でもなかった私に、外国の神父様が心暖かいお言葉をかけて下さり、大変感銘を受けた思い出が残っております。

今春、心を病み一カ月程、入院生活を送りました。入院中にプリヨ

せていただきます。日曜学校ではたくさん友達ができ、御ミサの後サツカーをしたりお兄さんお姉さんに遊んでもらったりするのがうれしいです。

教会

アガタ
山本真優子

私は教会でたくさんの方にとっても良くしていただいています。そして教会では神父様、シスター、

事務員の方、役員の方、日曜学校の方、侍者の方などみんなそれぞれが教会のために働いていてとてもすばらしいなと思えました。

そんな人たちに見守られて洗礼を受けられることができ私は本当に幸せだなと思っています。

洗礼を受けて一度だけ朗読をさせていただいたことがあります。ずっとあこがれていたのを声をかけていただいた時はとても嬉しくてがんばって練習しました。きんちょうしてその時の事はおぼえてないけどミサ後に色々

私が洗礼を受けて

マリア・テレジア
平野悦子

感無量の気持ちで一杯でした。

退院、二日後の四月十一日、復活第二主日（神のいつくしみの主

神父様と朝見さんが、御多忙にも拘らず、私の所へ訪ねて下さいました。御二人の声が病室まで聞えました時は、なつて下さいました。マリア・テレジア、神の子として新しく生まれました。今では、御聖体に養われ、賛美歌に心を清めています。まだ、勉強不足の私、皆様の御指導を、御願致します。

短歌七首

モニカ
川口伊津子

早朝は 風と光と 遊んでる ぶらんこ鉄棒
砂場の玩具
子と遊ぶ 無心に遊ぶ 追いかけて 追いかけて
られて 冬の陽の中
雪柳の 香りの中に かくれんぼ 鬼の来ぬ間の 優しい時間
にこにここと 笑顔かわいい 女の子 我が家の 犬を 抱き締めに来る
ポストまで 五月の空気 吸いながら 花をみながら 会釈しながら
止まろうか とまらず行こう 菜の花が 綺麗で迷う 蝶々と私
纏わりつつ まとわりつつ 眠りゆく 幼子の 仕種 ゆつくりと雲

な方から「上手だった」「声がきれいだった」とほめてもらえて達成感を感じることができました。最初は気が向かなかつた侍者も今はとても楽しんでやっています。

この前あったパレエの発表会には神父様をはじめたくさんの方がみに来てくれました。それもとて嬉しかったです。

最後に私はこれかもたくさん教会の行事に参加したいです。また、少しでも教会の役に立ちたいと思います。洗礼を受けられたことを感謝しています。

洗礼という秘跡

マルガリッタ
酒井佳子

二〇一〇年という年が私にとつて特別な年で、また大きく変化し始めていることに驚いています。今年の復活祭に洗礼というすばらしい恵みによつやくたどり着け、今までの全てのことから感謝できるようにになりました。

振り返ってみると、約十年前に私はイエス様に出会っていました。友人宅の壁に『あしあと』という詩が掛かっていました。すてきな詩でしょ？と友人は話してくれましたが、その詩の深さに当時の私は心で感じる事ができず、「そうだね」とさらりと返答したのを覚えています。ある夜わたしは夢を見た。神さまと二人並んでわたしは砂浜を歩いていて……砂の上に 一組のあしあとが見えていた
一つは神さまの
もう一つはわたしのだった……しかし最後にわたしが振り返って見たとき

とどこどころであしあとが一組だけしか見えなかった……
「わたしの愛する子どもよ、わたしは決してお前のそばを離れたことはない
お前がもつとも苦しんでいたとき砂の上に一組のあしあとしかなかったのは
わたしがお前を抱いていたからなんだよ」

その一年後、南米の知人から頂いた額のプレゼントに『Holy Prints』。どこかで読んだ詩……。そう、友人宅に掛かっていた『あしあと』の詩。でも神様が呼んでいることに全く気づきませんでした。

同じ時期に、また別のクリスマスチャンの友人からお食事に招待され、初めて体験した食事の前のお祈り。食卓を囲み、皆で一緒に食事出来ることを感謝するお祈りだったと思います。(英語だったため、何となくしか理解できませんでした。)心のこもった温かい時間を過ごしたことを思い出します。

そして数年後、ダンスの先生との出会いで初めてミサというものを体験し、何と心が落ちまくるところなんだろうと感動しました。神秘的な空間で、なんだか懐かしいような感覚。でも、聖書の内容を頭で考え始めると、心を閉ざしてしまい、今までの自分から変化することに臆病に

なり、迷い、覚悟が決められない自分にもいやになり、それでも教会には何か惹かれ、たまにふらつとミサへ行きたくなつたり。そんな繰り返しは何年も続きました。

こんな頑固で優柔不断な私にも神様はちゃんとそばにいて、いろんな形で、わかりやすく導いて下さいました。

所属するパフォーマンスグループでJesus(証人)というマザー・テレサやヨハネ・パウロ世など十人の聖人の生き方を舞台上で演じる機会を与えてもらい、ワールドユースデイに参加し、オーストラリアの現地では信者さんのお宅にホームステイをさせてもらいました。信仰を持って生きている方々との出会い、本当に素晴らしい、感謝でいっぱいの旅でした。

日に日にイエス様のことをより身近に感じられるようになっていきました。そしてある時、「洗礼を受けたい」という気持ちが突然湧きあがってきました。ようやく心からそう思えるようになった時、本当に幸せな気持ちでした。

今までこんな私を辛抱強くまわりで見守り、支えて下さっていた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。そして洗礼式ではたくさんの方々にお祝いして頂き本当にありがとうございました。今までも神様にささえられて生きていたんだなあと感謝と喜びを、洗礼を授かってから強く感じるようになりました。ことばで表現するのが難しいけれど、洗礼を通してお恵みをたくさん頂いていることを実感しています。

娘を通して成長した

聖カタリナ・シエナ
岩月陽子

私の人生を振り返ってみると、一番初めにお友達になつたのは教会の牧師さんのお嬢さんでした。私はたぶん、幼稚園児だったと思います。真っ白な三角屋根の上の大きな十字架がついていました。中に入ると横長の椅子が沢山並んでいた事を覚えています。

小学校の頃、お友達に誘われて毎週、集会場でやっていた日曜学校へ熱心に通っていました。クリスマスには牧師先生と一緒に教会へ行きました。毎週、頂く小さな聖句カードをとっても大切ににお気に入りの箱にしまっていました。

暫く教会とは縁遠くなつていましたが、就職先がカトリック幼稚園でした。カトリック幼稚園研修で御ミサに与り、沢山の神父様がいらつしました。

なぜか、御ミサの間中涙が止めどなく流れ、なぜ泣いているのか？自分でも理由が分かりませんでした。

それから、聖書の勉強会のお仲間に入れていただき少しずつ聖書の世界に慣れていく機会になりました。そして、Srkレアとの出会いがございました。

「なんて、前向きな明るい方なのだろう」と言うのが第一印象でした。何でも相談し、沢山の事を教えていただき神様を信じて生きる姿勢に心から惹かれま

した。

お会いする度にSirkレアは「いつもあなたの事を祈っていますよ」と言ってお下さいました。Sirkレアに憧れその出会いに只只喜んでいたら「世の中で起こることに、偶然な事は一つもありません。全て神様の計画です」とおっしゃいました。その時は、その言葉があまり良く理解できなかったのですが今は、本当にその通りなのだとしみじみ思います。

その後、城北橋教会にご縁ができました。みこころ幼稚園にお勤めをし、結婚式もこちらの教会で挙げさせていただきました。そして、十年近く後藤先生「子どもの家」でもお手伝いさせていただきました。三人の子どもに恵まれ、嬉しいことに長男と次女と一緒に洗礼を受けることが出来ました。高校生の長女はまだ、迷いの中にいるようです。

次女は未熟児で生まれました。生まれた時は何ともなかったのですが、1週間たつたら網膜が剥がれてしまい「未熟児網膜症」になってしまいました。彼女の最高の視力は「光覚」のみです。私はそのショックから、立ち直

るのに二年かかりました。この二年間は何の喜びもなく過ぎていきました。二歳から、後藤先生にモンテッソーリの個人指導と高橋先生に音楽療法の個人指導を始めて頂きました。

音楽と言つ世界が、娘をこんなに大きく成長させてくれるとは夢にも思いませんでした。音楽があれば、本当に嬉しそうに笑ったり手を叩いたり・・・私も娘と一緒に笑っています。自分に驚きました。その頃から、やっと腹をくぐる事ができるようになってきました。それまでは、どこに連れて行くにも世間の娘を見る目に押しつぶされそうな日々を送っていました。もつとしっかりと顔を上げて生きていくと決めたら、とても気持ち

が楽になりました。洗礼を受けるに事を一番望んでいたのは、次女がほりでした。「どつて私を教会へ連れて行ってくれないの?」「私は日曜学校に行きたいのに!」といつも言っていました。彼女の言葉に励まされ、私自身もう一度勉強を始めようと思ひ教会の門を叩きました。二年間もの間、本当にお優しくお勉強をしてくださったプリヨ神父様には、感謝の気持ちで

いっぱいです。神父様が「後ではなく、今必要だから洗礼を受けるのですよ」と、おっしゃいました。本当にその言葉通りだと感じました。

かほりは目が見えませんが、神様から沢山のお恵みをいただいているのだと思います。何よりも、心が真直ぐ神様に向かっている娘を通して私自身成長させて貰っています。

長男慎一郎も、日曜学校のお仲間に入れていただき毎週日曜日、心待ちにしています。きつと、辛いことや悔しい思いをし壁にぶち当たる時もあるかもしれませんが、でも、自分の中で揺るがないものがあれば、どんな事でも乗り越えて行つてくれると信じています。



どうぞ、今後とも親子共々宜しくお願いいたします。

心を新たに

小さき花のテレジア
大岡敦子

私が初めて城北橋教会を訪れたのは、二年前の夏のことでした。城北橋教会で行われた「日本カトリック信徒宣教師会(FCM)」のチャリティーコンサートの手伝いのため、横浜から訪れました。名古屋の暑さはまさに蒸し風呂のようで四苦八苦い

たしましたが、猛暑にもかかわらず会場にたくさんの方々がお越しくださいり心のこもった拍手を送つてくださったことの驚きと喜びの方が今も心に強く残っています。そして、このたび思いがけず主人の転勤に伴い名古屋に住むこととなり、転入いたしました。不思議なご縁です。先月初めての子どもを出産いたしました。元氣な男の子です。慣れない育児に精一杯ながらも、命の誕生と成長よつて心を新たにさせられる日々です。「神は私たちを愛するため、そして愛されるために創られました」というマザーテレサの言葉が心に響いています。どうぞこれからよろしくお願

初聖体おめでとう

を皆で祝福いたしましよ。そして、教会

今年も、六月六日「キリストの聖体」の祭日に二人の子供が初聖体を受けました。森野孝之君とマリア中尾優香ちゃんです。本当におめでとうございます。シスター高良と長い間、頑張つて勉強を続けた子供たちに感謝いたします。の宝であるこの子たちを育ててくださった神様と両親に感謝して祈りましよ。(後藤)

懐かしき便り

三人の方から便りが届きました。福岡に行かれた木川千栄さんのシスター林宛のメールですが、許可を得てそのまま掲載させていただきます。昨年の聖母被昇天号で、復活徹夜祭に長男と長女が受洗された喜びと同時に、カソリックの洗礼を受けておられないお父さんのことを

転籍されたり、気遣って「一人ぼっちになるお父さんがかわい海外に行かれそうだから僕は洗礼を受けたい」と言った次男に対し、その優しい素直な気持ちを大切に、神様は彼のそばにもいてくださることを信じて見守っていきたくて書いてありました。その次男のベルナルド信託（あきよし）君が今年の復活徹夜祭に受洗されたとのこと、神様の計らいの奥深さに心をつたれますね。

浄水通教会（福岡） マリアマザーテレサ 木川千栄

暑中お見舞い申し上げます！
明恵さん、メールありがとうございます！
ご無沙汰してしまつて、慌しく過ごしていました。先日、あきよし様が初聖体のお恵みに預かりました。いつも侍者でがんばっていたので、教会のみなさんが本当に喜んで下さっているのが伝わってきて、ジーンときましました。今、あきよしに明恵さんへとコメントをもらいました。

「ずーっと待っていたので、すつこくうれしかった。思っていたより味がしなかった・・・」
と言っています。（笑）
城北橋は今年もまた水晶浜なのです！お天気に恵まれて、楽しい思い出になりますよ、お祈りします・
こちらはサマーキャンプとし

ての企画は残念ながら無いので。来週、あたまたに私と子供達は主人よりも先に東京の赤羽に帰る予定で、つぎの週、主人と合流して千葉の幕張にある主人の実家にいきます。

日曜学校というよりも、侍者の子供達の為に・・・と日曜学校を担当されている神父さまが熊本での川遊びを考えてくださっていました。メインのメンバーとなつていらっしゃるお兄ちゃん達がいらないのなら・・・秋ごろにまわしましょう！と下さつて、だいぶ救われた気持ちになりました。（笑）何も無い・・・というのはちょっと寂しいですよ。

神学生はこの春からまた新しい方がいらしゃつて、フィリピンの方と韓国の方です。昨年度でいらした日本人の方は京都教区の小立花さんという神学生で、片岡神学生をご存知でした！
浄水通教会は毎年二人ずつの神学生が研修司牧でこられていきます。浅井さんという神学生は

もしかしたら私達の前にいらつちゃつたのかも知れないです。日曜学校は小学校の高学年でたいてい参加しているのはうちのお兄ちゃん達なので、今年の教師になられた司教館にいる神父さまとの、個人指導といつてもいい状態です。（笑）しずか達幼稚園児はシスターに教わっています。

先日の日曜学校の内容は、聖霊のたまもについて・・・でした。その内容のなかで、シスターが「子供達につたえるのが本当に難しいの・・・」といいながら「畏敬」の説明をされました。私はもう大人ですが、改めてその意味の大切さが今更ながらわかりました。子供達を日曜学校、そして教会に連れてくることの意義を感じました。

色々な神学生とふれあつたり、時には神学校の先生をされている神父様も訪れてくるので、我が家の子供達（とくにお兄ちゃん達）は良い経験になっていきます。けれども、女の子はたたく

タイ・バンコク ディンブナ 清水綾子

皆さま、お元気ですか？
日本は夏真っ盛りで、城北橋教会の御聖堂も暑いことでしょう。でも、タイはもっともつと暑いんです。特に私が住んでいる所は（四月に

ん集まるけれど男の子は少なくて・・・お兄ちゃん達は城北橋が本当に懐かしらしいです。しずかは記憶が名古屋から始まっているらしく、「いつになつたら名古屋に帰れるの？？」とたびたび聞きます。達ちゃん、遊びにきてくださいな・・・！
ヘルマス神父様のこと、寂しくなりますね。「いぶし銀」という言葉がぴったりで私はちよつと親しみを感じていました。声はなかなか掛けられなかつたけれど。
先日、城北橋のHPで「みこころ」の最新号を拝見しました。みなさんの様子が伝わつて（明恵さんも）嬉しかったです！HPがあつて良かった！広報担当さん、ありがとうございます！！
ことしの暑さは本当にこたえますね、明恵さんくれぐれもお体に気をつけてくださいね。それではまた！！



タイ人の約九五%が上座部仏教という日本の仏教よりも戒律が厳しい仏教を信仰しています。そしてキリスト教徒は約〇・五%だそうです。
そう聞くと、さぞや教会が少ないだろうと思われるかもしれませんが、意外にもバンコク都内（バンコク大司教区）だけでも十軒以上のカトリック教会があります。カテドラルはアサンブション大聖堂といい、バンコクを流れるチャオプラヤー川近くにあり、周りにはマンダリン・オリエンタルやペニンシュラ等

バンコクから一六〇キロ離れた町に引越しました）、特に暑い地域らしく、夏季（最も暑い季節）には四十度まで気温が上がります。今は雨季で、一日に数回雷雨がやってきますが、日本の梅雨と違い、雷雨が去つたあとは概ね太陽が顔を出します。でも湿度も相当ありつらいです。
さて、今回はタイのカトリックについて、少しだけ書かせて頂こうと思えます。タイというとすぐに「仏教」と思われることでしょう。全くその通りで、

の高級ホテルが並んでいます。一九八四年にはローマ教皇ヨハネ・パウロも訪問されたとのこと。

私はバンコク在住中、欧米人が多く住む地区にある聖ルデイマー教会で英語とタイ語のミサに与っていました。どちらのミサでも言葉はチンプンカンプンですが、流れは日本と同じなので「カトリックつてやっぱり世界共通なんだ」と実感しました。聖ルデイマー教会は寺院風の外観で、イエス様も仏像のように金色に輝いていて、南国情緒あふれる教会です。そこで暑いクリスマスと復活祭を体験しました。特に夏季にあたる復活祭のミサでの暑さは城北橋の比ではありません(笑)。

聖ルデイマー教会には、少数ながらも在タイ日本人会があり、毎月第四日曜日のミサのあと、長年タイで奉仕活動をされているシスターを中心に分かち合いが行われています。日本語のミサは年に一〜三回程、会議などの用事で来泰された神父様にお願ひしているそうで、私も六月に初めて与りました。久しぶりの母国語のミサ、とても嬉しかったです。私がタイにいた間に、プリーヨ神父様が来て下さる機会があればいいのになあと期待しているのですが???(笑)。残念ながら今は住んでいる近

所に教会が見つからないので、殆どミサには与れませんが、月に一〜二回バンコクに出た時、夕方のミサに与って帰るようになっていきます。時々、城北橋にいても帰りたくありませんが、神様が「帰りなさい」とおっしゃるまでは、タイで頑張りたいと思っています。

最後に、日本人カメラマンが亡くなったので皆さまもご存知かと思いますが、五月十九日、バンコクでは軍とデモ隊との衝突で、八十六人も尊い命が失われました。私も丁度バンコクに出たおり、その緊迫した状況を体感し、人間の愚かさを感じました。反面、その翌日には、放火で全焼したショッピングセンターの前で露天商を広げ、残った物売る人々を見て、人間の逞しさを感じました。亡くなった八十六人の方の永遠の安息を祈ります。

金沢教会 ミカエル 山本光太郎

お久しぶりです、金沢教会の山本光太郎です。お変わりありませんか? 時間の経つのは早いもので、名古屋に来て、初めて教会に行った日にお花見をしたの

がついこの間のように思います。あまりたくさんの方には参加できませんでしたが、バザーの準備やサマーキャンプ、クリスマスコンサートなど、とても記憶に残っています。また、神父様やシスター、教会学校のリーダー達、いつも元気な子ども達、よくお昼ご飯を用意してくださったお母さん、お父さん方、オルガンを教えてくださった先生方など、大学在学中の四年間、城北橋教会のみなさんには本当にお世話になりました。みなさんと、この素晴らしい出会いを覚えてくださった神様に、心から感謝しています。

現在私は金沢市内の中学校で音楽の講師をしています。初めてのことはばかりで授業などにもまだに慣れないですが、毎日楽しく子ども達と接しています。また、吹奏楽部にとても力の入った学校で、その副顧問を担当させていただいています。土日も毎週練習で、夏季休業に入った今でも全国大会を目指して毎日部活の支援・指導に励んでいます。教員としてはまだ正採用ではなく、先日も教員採用試験を受けてきました。合否の結果がわかるのは十月なのですが、どうも来年も挑戦することになりそうです。

明るい雰囲気をもつ城北橋教会が、私はとても好きです。本当は何度も顔を出したいと思っ

ているのですが、先に述べた通り部活で休みが取れない状態が続いています。いつかまた名古屋に足を運べる機会がありまして、ぜひ伺いたいと思います。最後になりましたが、城北橋教会のみなさんのご健康と、子ども達の健やかな成長をお祈りしています。

生かし合う信仰 キリストに結ばれて ルチア 須藤ヨシ子

すがすがしく、庭で働く、思う:

トラピストのシスターが詠まれしおりになって十五年間机に置いていた句が今日はなぜか心にひびいてきました。

この句は神さまの愛に育まれ、日常的な庭仕事にも一途に生きておられるシスターの幸せがひたひたと伝わってきました。

生かし合うとは、キリストに結ばれてとある。私たちは洗礼によって神の子とされ、ご聖体によって日々養い育てられてい

る。毎日みことはを聴きそれをかみくだいて心の糧にし、わかつた一つ一つを実践していく時、愛をわけ合っていていく喜びが味わえる。とは言っても生かし合うことのむづかしさや足りなさを日ごろ感じてきました。

人間を知り、人を理解し、個有なものを受け入れて交わっていく中で無償の関わりでなく、みかえりや賞賛されることを期待したり見栄や阿太りと心はいつもさわやかではない事も多々あります。この外面が見えてくる時それを隠さずに正直に心の動きを見張り、聖霊によって変えられるように祈ります。

こうした内なるまなざしは神の愛に至る大切な道です。そこに見え出すのは自分の内面を知らずには真実の神との出会いもなく、社会への感化力も少なく、福音宣教の稔りもない。真実の神との出会い、自分との出会いによって、生かし合う信仰は深められるのではないかと思います。

又私たちが生かし合う具体的なことの一つに献金や寄付もあり相手生かし、自分も生かされる行為を物おしませず私のものと言わずに気持ちよく協力したい。

そこにも思いこば、おこないを通しての生かし合う信仰が囲りをあたたくつつみ込んでいくでしょう。

マリア様の 悲しみと喜び

アウグスチノ
清水隆

聖母マリア様の悲しみについてふれてみたい。

十字架で亡くなられたイエス・キリストをマリア様が膝の上に抱くピエタ像は、ミケランジェロ作で、ヴァチカンのサンピエトロ大聖堂にある。この一枚の写真を観るとき、深い悲しみが伝わってきます。

マリア様にとって貴い御子がどうして捕えられ、群衆から嘲りの言葉を浴びなければならぬのか。ボンシオ・ピラトはむち打たせ人々に渡したと聖書に書かれています。このむち打ちという刑は大変残酷なものです。大罪人をこらしめるために、むちの先端は金属製のがつた刃が付いていて裸の背中に打ち付けられると肉にささり、引きちぎられ、血しおと肉片が辺りに飛散するといふ。

このむち打ちでイエス様は体力の消耗が激しく、十字架の道行きて三度も倒れる事になった。

道行の祈りの言葉 第四留

「イエス、み母に出会う」
「最愛の母と子、互いの目と目、心と心が通うその刹那、そのときどのような愛、どのような苦しみがふたりの心を波立たせたことだろう。このまなざしの間に何かあるのか？ 神のみそれを知る」とあります。

しかしイエス様を見守りながらマリア様はどれだけの涙を流したことでしよう。そして十字架への釘づけ、その激痛を見なければならぬとは…この激痛の十字架上から、イエス様は話しかけます。



「彼らをお許し下さい。」「改心した一人の囚人に」「今日おまえは、わたしと共に天国に入る」

弟子のヨハネに

「なんじの母を見よ」すなわちマリア様はこのとき、教会と、求めるすべての人類の母とされた。解説書は続けて

「ヨハネはマリアを自宅に引き取った『この日』からすべてのキリスト信者は母を持つ子となった。膝に取りすがって泣き

全てを告白することの出来る母を。カトリックの教会が暖かいのはそれが母を持つからである」と。

「天父よ、御手にわが魂を」と呼んでイエス様は息を引き取られた。マリア様は十字架から降ろされたイエス様を膝に抱きます。

ピエタ像です。涙もかれ果て悲痛の中でイエス様を清める心境はいかばかりか…受胎告知から清い信仰を生きたマリア様にとつては何という事なのでしょう。

三日後マグダラのマリアが知ることとなる「御復活」

マリア様が知った復活の喜びは、悲しみが深く大きかった故に、歡喜に、身も心も震え「神に感謝」と呼んだ事でしょう。

被昇天祭に当り、マリア様の喜びを心から祝い、私達もその御加護を祈り、良き信仰生活をおくりたいと思います。

信者動向

【洗礼】

- 四月三日
ミカエル 富永 満夫
マルガリッタ 酒井 佳子
アガタ 山本 真優子
ブルーノ 山本 道隆
四月十一日
マリアテレジア 平野 悦子
五月二十三日

- 聖カタリナシエナ 岩月 陽子
聖ヨハネボスコ 岩月 慎一郎
ベルナデッタ 岩月 かほり
六月十三日
マルチノ 岡田 怜弥(さとや)

【転入】

- 三月三十日
横浜教区 藤が丘教会より
小さき花のテレジア 大岡敦子
四月十日
京都教区 桑名教会より
マリアテレジア 河村 久子
六月二十一日
長崎教区 飽の浦教会より
ドミニク 峰脇 タ子(たね)

- 【転出】
五月九日
東京教区 田園調布教会へ
洗礼者ヨハネ 吉田 裕介
アンジェラ 吉田 桃子
聖アンナ 吉田 愛子
五月二十一日
江南教会へ
マリアベルナデッタ中村めぐみ
マリア・グラチア 中村 理紗

- 【転籍(転会)】
日本基督教団 東海教会より
坂江 利子

【結婚】

- 五月一日
フランシスコ 大倉 貴史
岡島 瞳

【帰天】

- 二〇〇九年十一月十一日
ヨゼフ 河村 孝良
(享年七十四歳)
二〇一〇年七月一日
(後藤明憲)

マリア 桜本 由記子
(享年六十四歳)

二〇一〇年七月二十二日

パウロ 加藤 政幸
(享年六十七歳)

編集後記

八月十五日は、聖母被昇天、終戦、お盆と色々な意味で死者を思う日です。マリア様が靈魂だけでなく肉体とともに天にあげられたという教義は、僅か六十年前に制定されたものですが、六世紀にはこの日をマリア様が亡くなられた日として祝われています。イエス様ともっとも深く結ばれておられたマリア様は当然、復活の恵みを受け、永遠の生命のうちに誕生されたのだと、考えられていたからです。しかし、このことはマリア様が特別な存在だという意味ではありません。キリストを信じる全ての人が、マリア様とともに永遠の喜びに入ることが出来るように、ミサの中ですべての死者のために祈っていることからわかります。城北橋教会では、この時期に合同慰霊祭というよりは、死者のための感謝ミサを捧げています。プリヨ神父様が「天上の共同体と地上の共同体が一致して永遠の生命を約束された神様を賛美するのです」と言われたように、死者との交わりを大切にするためなのです。